

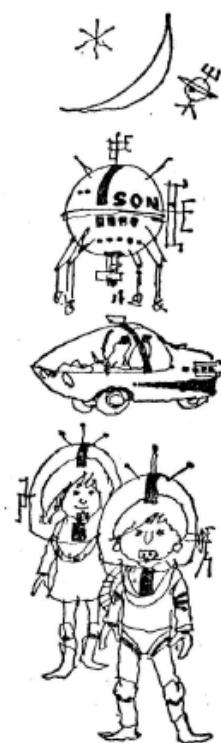
■ 六年生に語る

二十一世紀になるまでに

二十一世紀に生きる子どもたちへ私はこう話してやりたい

矢 口 新

能力開発工学センター常務理事



地球の生物の歴史

みんなは、地球の歴史を勉強したことがあるだろうね。はちゅう類が、ものすごく大きくなって栄えた時代があることを知っているかな。そのころ、哺乳類は小さくなって逃げかくれていた。しかし今はその哺乳類の子孫である人間が、地球の上を、いや地球の外までも、わがもの顔にとびまわっている。

さて、はちゅう類の時代がどうして次の時代にかわったのだろうか。いろいろ原因があるけれども、自分のからだが大きくなりすぎて、自分で自分のしまつに困ったということなのだね。自分で自分をしまつすることができないものはほろびるということとは、たいせつなことだ。よくよく考えてみる必要があると思うな。今の人類も、大きな地球の歴史、生物の歴史からみると、やっぱり自然のきまりには従わなければならぬ。人間が自分で自分のしまつができなくなったら、おしまいになるかもしれないな。

人類はほろびるかもしれない

ところで、人間はいま、自分で自分のしまつができなくなっていることとはないだろうか？

いや、どうもありそうだ。原子ばくだんなんていうのは、その一つの例かもしれないな。人間は、はちゅう類のようにからだは大きくならないが、人をやっつける武器を大きくして、一ぱつで何百万の人間を殺すものをつくってしまった。はちゅう類は自分のからだを大きくして敵をやっつけたが、人類はからだは小さいが、知恵の力で自分の手や足のかわりとなるもので、ものすごくひどいものをつくってしまったわけだ。これはおそろしいことだな。

もし人類の中に気がいがひとり出て来て、それを使ったら、人類はほろびるかもしれない。それはほんとにおそろしいことだ。なんとかしてそうならないようにしなければならぬ。しかしどうも危険なことの方が大きいような気がする。世界のいたるところで戦争をやっているのはどういふことなのかな。

おそろしい武器を使って、大ぜいを殺すことを平気でやっているとい

うのはどういうことだろうか。だれが考えてもいけないことをどうしてやっているのだろうか？ひとりひとりで考えればだれも悪いとわかることを、どうして国としてやっているのか——国というのはいない方がよいのかな？ 国というものをよくすることはできないのかな？

国が大きくなりすぎたので、自分で自分のしまつができなくなってきたのかな。そうだとすると、国があると人類はほろびるということかもしれない。

国が自分で自分のしまつをすることができるようするには、どうしたらよいのかな？

国というのは何だろうか

国をよくするには、みんながよっぽどいっしょうけんめいやらないといけないかもしれない。

いま日本の国には、口ではえらそうなこと、りっぱなことを言うくせに、かげで悪いことをするやつが多すぎるな。まあ、ひと口で言うとうそつきだな。そうそう、近ごろ、水俣病が会社の廃液によっておこったということに決まったと新聞に出ていたが、ほんとうのことをいうと、もう十何年もまえにわかっていて、それがかくされていたということも新聞に出ていたね。おおぜいの人たちがあんなに苦しんでいるのに、会社も国も知らない顔をしていたというのはどういうことだろう。そういう国では、ひよつとすると、人類をほろぼすことになるかもしれない。心配だな。

大きな会社の人がお金を使って、自分の悪いことをかくすように、政治家や役所の人にはたらきかけ、それによって、みんながほんとうのことを言わないで、多くの人が苦しむことになる——というのでは困るね。そういうば、新聞に、ときどきえらい人が金をもらって、正しいことをまげていることが出ているが、みんなは読んだことがあるかな？ 国を

よくすることはみんなの大きな仕事だが、よっぽど、みんなが強く正しくならないとむづかしい。自分たちのつくっている国を自分たちで、正しい国、人類の幸福をつくる国にしないと、人類はほろびるかもしれない。

世の中のことを考えよう

そうそうこの話は二十一紀になったらという話だった。

みんなは二十一世紀になったとき、四十いくつのおじさんやおばさんになっているね。もちろんこの話をしているおじさんとはつくの昔に死んでいなくなっている。みんながどうなっているかが見たいな。どんな顔をしてどんな仕事をしているのかな？ 学校の先生になっている人もいるかな？ そのころ学校はどんな様子かな？ 月へ行く人もいるかもしれない。サラリーマンの人もいるだろうし、学者も、技術者もいろいろな人がいるだろうな。みんなそのころは、子どももできて、おとうさんおかあさんになっているが、やさしいおとうさんおかあさんかな、それともきびしいおとうさん、おかあさんかな？ いまみんなはどういう人になろうと思っている？ 「そんな遠い未来のことなんか、考えてもわかるはずがない」といえばそのとおりだ。まだ三十年もさきのことだものな。あしたのことともわからないのに、そんな遠いことはわからない……。でも、このごろ二、三年の町の通りの自動車のふえ方を見ていて、十年もたったらどうなるかを考えると、恐ろしい気もするね。あんまりそれがふえると、やっぱり、自分で自分のことがしまつできないことになりそうだな。自動車の排気ガスで人間がほろびるかもしれない。そんなことを心配して知恵を働かしている人、研究をしている人がいるのかな？ おじさんはね、みんながそういう心配をしないと、たいへんなことになるのではないかと、心配しているのだよ。みんなが勉強して、いい知恵を出してほしいのだ。

みんなに考えてもらいたいこと、くふうしてもらいたいことは、そこらじゅうにころがっているようだな。

世界もいいことばかりではない

いま地球上には何十億かの人類がいるが、今のような様子で人類がふえてゆくと、やがて食糧がなくなるときが来るといわれている。みんなはそんなとき、どうするかな。となりの国、アジアの国々、アフリカで、うえ死にする人が出てくるとき、日本だけは知らん顔ができるかな？ そういったことを、もうそろそろ考えなくてはいけなくなってきた。

月へ旅行するというような進歩した科学や技術があるけれども、そういうことだけでは人類は生きてゆけない。科学や技術を、もっと人類全体のために使うことを考えないといけないのだな。人類がうえ死にするようになったり、どこかの国でそういう状態になったら、自分たちも食べるもの着るものをへらして、そういう人を救わなければいけなくなるのではないか。今からそういう準備、心の準備をしておくことがたいせつだね。おじさんは、みんながおとなになるまでにそういうことがありはしないかと心配しているのだが。

それにはみんなも今から真剣に勉強して、人類のために、いろんなことが大きくなりすぎた人類が自分のからだをしまつでできるように、知恵をはたらかしてほしいのだ。みんながただ自分のことだけを考えて、他人のことや、よその国の人のことを考えないでいると、たいへんなことになりそうな気がするのだよ。

きょうとあしたがたいせつだ

みんなは来年は中学生になるのだね。中学生になると、すこしはちがつたことがありそうかな？ だんだんおとなに近づいてゆくのだから、

勉強もしなくてはならなくなる、高等学校が次にあるから、もっと勉強しなくてはならなくなるかと考えているかもしれないな。

けれども、勉強もたいせつだが、学校で先生に教えてもらうことをただおぼえるだけではつまらないな。よいことを教えてもらっても、それができなくてはなんにもならない。道徳の時間に「けんかはいけない」と教えてもらっても、ほんとにけんかをしないで仲よくやってゆけなくてはだめだな。

大学の学生が、平和のためにといって角材をふるってらんぼうをしているのをテレビで見たことがあるかな？ あれを見て、みんなはどう思う？ むつかしいことがあるのかもしれないが、やっぱりあれはいけないことだね。あんなことをしていると、ほんとうに平和になることはないな。学生ばかりが悪いのではないかもしれない。おとなも悪いかもしれない。両方ともそういうのを改めて、けんかをしないで、ほんとうの平和をつくるように、知恵をはたらかすことができるようにならないといけないね。みんなにそういうことができるかな？ いや、そうやってもらわなくては、大学なんかに行くのはナンセンスだ。

それには、いまから、あしたからでも、そういう努力をしなくてはいけないね。みんなもけんかはいけないことは知っているが、自分でするときは、とかく自分のつごうのよい理屈をつけることがあるのではないかな？ そういうことを続けていると、おとなになっても、平気でけんかをしたり、理屈をつけて国と国との戦争をするようになるのではないかな。

まだいろいろなことを話したいが、もうこれでおしまいにしなければならなくなった。これからみんながおとなになるまでには世の中はますますむつかしくなりそうだ。みんな、よっぽどしっかりしないといけないな。

■この文を子どもたちへの読み物。講話資料としてご活用ください。